

市街地整備対策特別委員会行政視察（概要）

1 観察日

令和8年1月20日（火）～21日（水）

2 観察項目（観察都市）

- ・都市計画マスターplan及び立地適正化計画について（玉野市）
- ・ハレまち通りにおける道路空間創出事業について（岡山市）

3 参加委員

委員長：長谷川 浩、副委員長：西本 瞳子

委 員：栗尾 憲、永田 真樹、西野 貴治、松本 泰典

委員外議員：片岡 真

4 調査概要

玉野市は近年、アート観光による外国人旅行者が増加する一方、香川県高松港への連絡船廃止や、製造業等の減退に伴い、20年後には市街地区域人口の4割が減少すると予測されている。

生活サービスやコミュニティ維持を図るために、人口密度の減少抑制を目指すエリア（居住誘導区域）を設定し、郊外から緩やかな移住を勧める「立地適正化計画」を策定した。

車がなくても公共施設や店舗等へ簡単に往来できるコンパクトシティを目指に掲げ、コミュニティバス・乗合タクシーの運営、老朽化や医師確保が課題であった民間病院と市民病院を合併する（全国初）等、市街地機能の強化に積極的に取り組んでいる。

岡山市は、主に商業施設が集積しているJR岡山駅周辺エリアと、歴史・文化遺産が集積している旧城下町エリアに分類され、賑わいの両核として機能していたが、平成26年に駅前に巨大商業施設が開業したことにより人流が偏り始め、改めて市街地全体に活気を波及させる方策が必要となった。

ワークショップや社会実験を重ね、車道を2車線から1車線化して歩道を拡幅したり、自転車レーンや荷捌き場の設置、植樹による憩いの空間の創出、夜間景観に配慮した照明設計等を行い、令和4年3月にハレまち通りをリニューアルした。安全で快適な歩行空間を創出し、車中心から人優先のまちづくりを推進している。



5 委員長所感

玉野市は、市街地に拠点を設定することで、都市施設の減少を抑えるとともに、拠点間連携ネットワークの利便性向上や公共交通の充実にも力を入れていた。

本市は、極端な人口減少はないものの、将来的には同様の課題に直面する可能性があることから、今後も、各拠点間連携ネットワークの活性化や、公共交通の充実に積極的に取り組む必要があると感じた。

岡山市では、賑わいの創出や回遊性向上から、ハード・ソフトの両軸で事業を推進している。ハレまち通りは、植樹や連続照明のほか、適所にベンチも設置され、歩く人にやさしい空間で、平日にもかかわらず多くの人が賑わっていた。

本市も歩道整備等に早急に取り組み、歩いて楽しいウォーカブルなまちづくりを進めなければならないと感じた。